目指す学校像 元気いっぱい 笑顔いっぱい 感動いっぱい 春野っ子

- 1 学ぶ楽しさや喜びを味わい、互いに磨き合うことができる学校
- 重 点 目 標 2 安全に配慮し、美しく整えられた環境づくりがなされている学校
 - 3 家庭・地域との連携を深め、地域と共に生きる学校

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

達	Α	ほぼ達成	(8割以上)
成	В	概ね達成	(6割以上).
度	С	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

				校	自	己	評	価			学校運営協議会による評価
	年	度	目	標				年 度	評	価	実施日令和7年2月3日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策		方策の評価指標		評価項目の達成状況		達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語科では、漢字の使い分けや情報同士の関わりをとらえること、文章にまとめる問題、指定された条件の読み取りに課題が見られた。資数科では、データの活用、面積の大小を判断し、理由を記述する問題において特に課題が見られた。 ○市の学習状況調査においては、「思考判断表現」や、「話すこと書くこと」に課題が見られた。	・学び探究自律に の完化と ・けた ・学の ・特報端末 の活用	①朝学習の時間を、全定し、るのでは、週報学習の時報や日報を日報を日報を日報を見かられている。 ②高学年での情報端末に、のいるとのでは、は、自らがは、自らがは、自まな習慣を身に付け	通じて、確実に の持ち帰りを開始 復練習を行うと 的に学習に取り	①学校運営評価の保護者で、いて「基礎学力を高いる」 た学習恒学を行って保護者の%以上となったか。 ②高学年での情報端末の持 状況調査を行い、持ち帰 用率7割を達成する。	ために工夫し について背 の割合が8	①朝学習の時間における る学習はほぼ計画通り ート結下回った。 ②高学年とかがやき学級 は、約9割実施できた であった。	実施できた。アンケ %となり、昨年度をでの端末の持ち帰り	D	①朝学習の時間における基礎学力の向上(ICT, 読書、ドリル)の取組は定着してきたが、今後は、質的部分の向上を工夫していく。 ②端末の取り扱いにも慣れ、活用が進んでいる。今後は、紙と端末の効果的な使用場面について、工夫改善を行う。	・勉強会は、どのように募集や 声かけをしているのか。よい 取組なので、引き続き、取り 組んでほしい。・特に、活字ばなれが言われて
	(課題) ○中学年での無回答数が高い。国語算数ともに、全無回答の半数において、その2/3が、およそ1割の児童によるものであった。全体への指導とともに、少数の児童への個別対応を進めていく必要がある。 ○主体的に学習に取り組んでいると感じている児童は多いが、成果が見えてこない。	・学家では、身では、一学のいいは、一学のでは、一	①長期休業中に、高学 応じた勉強会を実施 服を行い、自己肯定感 ②算数の人数指導を で、学習への意欲と	に、苦手分野の克 意欲を向上さい を高める。 と高と高 と高 と高 と高 と 高 と 高 と る と る 。 と る 。 と る と る 。 き と る と る と る と る と る と る と る と る と る る る る る と る	①長期休業中に、高学年児 会を2回以上実施する。 ②算数の授業において、習 と、少人数指導を実施し、 基礎学力調査アンケート 体的に学習に取り組む態 着について、肯定的評価 を達成する。	割 熟度別学習 本校独自の こおけて、主 度と技能の定 を80%以上	①夏季休業中における、 強会を2回(7月末、 た。7月末は延べ30 が、8月末の参加人数。 ②高学年中心に複数 のT1T2の複数 ることができた。 結果は、81%であっ	8月末)実施でしき 名の児童が参加でした よの実態に応じたに変数 の実態に増享を にケートの肯定的評価	В	①夏季休業中の勉強会は、時期によって、参加率が大きく変わる。参加させたい児童をどのように参加させるかについて検討していく。 ②算数の学力向上のため、少人数指導教諭を高学年で活用した。引き続き、継続していく。	いる今、読書の時間は大切だと考える。来年度は、より一層の朝読書の拡充を望みたい。落ち着いた一日の始まりという点でも有効だと思う。
9	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均をやや上回っている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童のけが、救急搬送を伴うもの、交通事故は0件であった。 (課題)	・児童の 一人和 と の 和 支 を り 教 教 に に 物 大 内 た 失 き に 、 り た 、 り た 、 り た り た り た り た り た り た り	①教育相談日の日数を: の連携を深め、保証 応していく。 ②校内教育支援センタ・ (Sola ルーム)」 に周知することで、 対応していく。	を者への需要に対 - 「つながる~む と設置し、保護者	①教育相談の研修を充実する。 員のカウンセリングもも連りである。保護者ののもを、者への支援体制を、者をである。 を教育相談日の利用者がある。 割増加ながる~む」の利用し、のインアントにおいて、 価を得ることができる。	の向上をはか見りを図り、見かられています。 では、 見いまでは、 しいまでは、 見いまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しいまでは、 しい	①教育相談の研修を行いを行うことが相談の研修をきた。 を行うことやか相談員とを行うさい、知力に対し、知力にはでは、知力にはで工夫しい。 世年度とほぼ同程度で、 ②「つながる~む」の和な利用を行うことがで	また、SCSS も定期的に情報可能 に密めた。教育相談 たが、利用者数は、 あった。 J用を開始し、継続的	В	①次年度は、スクリレ等により、教育相談日の周知を行い、利用率の向上を図る。 ②通級指導教室ともにに、「つながる ~む」の本格運用に向け、教室環境を整え、周知方法を工夫する。	・教育相談体制のより一層の充 実を図ってほしい。以前はも っと活用されていたように思 う。そのためには、広報や周 知の工夫が必要である。
2	○各学級に在籍する、指導に配慮を要する児童に対して、支援の拡充を求める地域・保護者の要望が多い状況である。さらなる支援が必要である。また、その実現のための組織つくり、校内環境整備を推進していく必要がる。	・安全な生活の 実現取主権か児 に組ので を を を を を を を を を の で を を の で を の で を り た り た り た り た り た り た り た り た り た り	所、件数、原因なと 員・児童・保護者と るようにする。 ②「学校保健委員会」、 会」において、児童 PR活動を行う。	を分析し、教職 結果を共有でき で「学校運営協議 が主体となった	①児童委員会とも連携し、」 に取り組む活動を計画的に ②学校運営評価の保護者ア 「学校は環境を整え、落づくりに取り組んでいる」 回答の割合が80%以上。	こ実施する。 アンケートで トラートで トラートで と着いた学校 の肯定的な	①養護教諭、保健委員会 発生場所、件数、原 マップ」として掲示し 実を図り、児童の意識 た。 ②児童主体の会議への参 たの肯定 であった。	、学年などを「ケガ 、保健コーナーの充 を高めることができ かを行うことができ	В	①児童の大きなけがや事故、救急搬送などはなく、安全点検の修繕も継続的に行っている。引き続き、環境整備を行っていく。 ②安全な登下校について、トラブルや苦情が寄せられることがある。安全指導について、改善を図る。	・登下校中のトラブルは、気を付けていってほしい。遅くまで外で遊んでいる子どもたちも時々、見られる。地域の声かけも、重要である。
3	(現状) ○目指す児童の姿について、PTAや地域の方々と、共通理解を図り、検討を積み重ね、春野小の児童を地域全体で育てていくことを共有した。(課題) ○PTA役員会や学校運営協議会で共有した目指	・ 目 接 を 共 の 、 大 の 、 大 の 、 大 の 、 大 の 、 大 の 、 大 き ち う う う ち う う た う た う た う た う た う た う た	①PTAや地域行事に することでで 化し、育てる姿勢を明明 ②学校行事やお手紙等 やHPで周知し、学 童の成長に対する関	PTAの連携を強 と一体になって児 権にする。 こついて、アプリ 交の教育活動や児 ふを高める。	①教職員が、一人年1回以上地域の行事に参加する。 ②学校運営評価の保護者ア、「学校では家庭への連絡を行っている」と回答する。 以上となったか。	ンケートで、 シきめ細かく	①教職員のPTA・地域 年一回以上)を推進す ②スクリレ配信による広 定着させることができ 定的評価は、84.2	ることができた。 報の工夫を推進し、 た。アンケートの肯 %であった。	A	①PTA・地域行事への参加が増えたのは、とてもよかった。引き続き、協働意識を高めていきたい。②デジタル化をさらに、推進することで、保護者・利用者の利便性を高めていく。	・様々なことが「見える化」されてきており、とてもよいことである。連携がより円滑に進み、トラブル等の未然防止にもつながっている。
	す児童の姿を、家庭、地域に広め、地域に住っみ、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに検討し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けて取り組む。	・児望関つ続向交動のしのがなた、充 と間に継に年活	目標を設定し、各リ た「なかよしタイム を実施する。 ②集団活動について、	ーダーを中心とし (縦割り活動)」 オンライン形式と レでの集会を推進	①学校自己評価に係る保護で「子どもに思いやりのだける」の肯定的な回答の%以上となったか。 ② 製学年交流や、集団活動が表現がある。 近世がある。 変異学年交流や、集団活動が表現がある。 変異がある。 で、児童がそのを事にいません。	ある心が育っ い割合が 8 を推進したこ なじた自覚と	①異学年交流を行い、な実施することができた的評価は、81.1% ②目的に応じて、オンラ動を併用であることで、児童のことで、児童のことであった。	。アンケートの肯定 であった。 インと参集による活 児童会活動を推進す 童の肯定的評は、7	В	①異学年交流について、学年に応じた 目的意識を明確にし、内容の工夫改 善を行う。を継続的に実施し、学年 に応じた目的意識を高めていく。 ②行事について、オンラインと参集を 効果的に組み合わせ、達成感を満足 感を味わわせられるような内容を工 夫する。	担任が指導に委縮することのないように、もっと毅然として、自信をもって指導をしてよい。何事も、初期対応はやはり、とても重要である。
4	(現状) ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法や学習活動について、研修や研究授業等においても、活用事例を蓄積してきた。 (課題) ○ICTの活用や学習指導の工夫について、教員間で取組や意識の差が見られる。誰もが、無理なく働き甲斐をもって、学び続けることができる職場環境へと工夫改善を進める。	・一持したを 一持しが 大ち、しが、 地の が揮発を あいしが、 地の が加め が加め が加め が加め はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる	トと研究主任を中心 員の指導力を向上さ	として、全ての教 せる。 多を推進し、一人 を通して取り組む 官し、目標達成に 協議会をブロック	①全ての教員が「主体的・対学び」の実現を目指し、「 下を活用する状況になった。 ②個人研究型の校内研修に関 とで、教職員へのアンケーいて、80%以上の教員で 価を達成することができた。	日常的にIC とか。 取り組んだこ ート結果にお が肯定的な評	①ICTやタブレットに向上のための研修を3等の活用が進んだ。ま積極的に活用を行った用方法についての理解: ②個人研究型の校内研修業は実施できたが、研施できなかった。初が、肯定的評価は80あった。	回実施し、キャンバ た、研究授業等で、 ことで、効果的な使 が深まった。 については、公開授 究授業については実 めての試みであった	В	①ICTやタブレット関する指導方法の工夫改善研修を引き続き、実施し、指導力向上を行っていく。また、ICT部を中心に、公開授業を行うなど、周知方法について、工夫改善を図る。 ②教員自らが主体的に学び、深めていく校内研修の方法や内容について、より一層の研修の工夫改善を行う。	 教師がゆとりをもってこそ、よい教育や指導ができるものと考える。引き続き、教師にゆとりをもたせてほしい。 ・ICT・タブレットの活用は今後、ますます必要になってくる。紙と併用して、それぞれの良さを生かしてほしい。